

報告タイトル

アジアの社会保障制度の位相
～先進福祉国家とは何が違うのか～
Phases of Social Security Systems in Asia
Differences from the advanced welfare state?

氏名(所属)

大泉啓一郎(亜細亜大学)
OIZUMI Keiichiro (Asia University)

要旨(800字程度)

企画の趣旨

21世紀に入ってアジアにおいて社会保障制度の整備が進んできた。

これには、各国政府の貧困問題、格差問題、少子高齢化などへの積極的な対応が大きく影響している。また近年では、SDGs（持続可能な開発目標）のアジェンダ達成のため、一人も残さないというセーフティネットの構築が優先政策課題になっているという側面もある。

同時に、アジアの社会保障制度の議論も活発になされるようになってきた。しかし、その多くは、先進福祉国家を最終形としたキャッチアップ的アプローチからの分析であり、現在の社会保障制度の現状把握と、先進福祉国家に比べて何が不足しているかを確認する作業がその大半となってきた。

しかし、現実に目を向けると、アジアの社会保障制度を取り巻く諸環境は、先進国が抱えるものとは、性質面で大きく異なる。それぞれの国の政策の経路依存性、産業構造・就業構造、人口構成・家族形態、政治体制・財政規模などに配慮すると、先進福祉国家の実現は困難にさえ思える。

つまり、アジアの社会保障制度を、先進福祉国家への途上という視点ではなく、諸問題との複雑な関係として、今一度整理し直すことが重要である。それは、アジアの社会保障制度が、先進福祉国家とは異なる道を歩むという新しい視点を切り開くものにもなる。

この点について、本分科会では、韓国、ベトナム、タイの社会保障制度の現況と特徴について報告し、先進福祉国家とは何が違うのかを議論する。